

# さようなら、稲生小



▲老朽化が激しく、取り壊されることになった木造校舎

長い年月にわたって、数多くの卒業生を送り出してきた稲生小学校（吉川裕校長「児童数二百十五人」）が、新校舎の完成に伴い取り壊されることになりました。

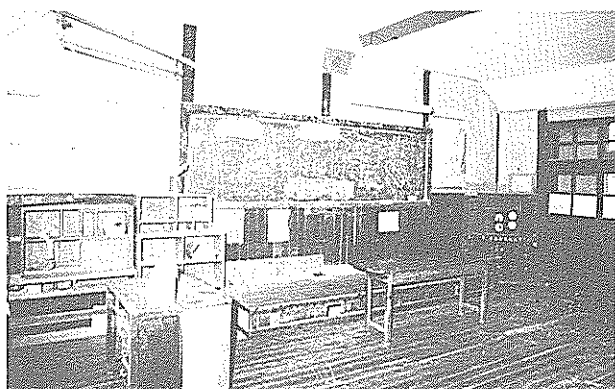
この校舎は昭和十二年に建てられたもので、老朽化が著しく早急な改築が望まれていたものです。

しかし、長い間親しまれてきた校舎が消えるのは寂しい思いです。ぬくもりを感じる木造建築、年輪を重ねてきた校舎は、子供たちの心に懐しい思い出を作ってくれたことでしょう。



▲廊下を走り、先生にしかられたことも……

▲長い間、お世話になった教室



## “明るい社会”を目指し

### 啓発運動を展開

「第三十四回社会を明るくする運動」月間の七月十九日、保護司会、更生保護婦人会、南園警察署など各種団体が協力して、「犯罪のない明るい社会を」と市内パレードなどの啓発運動を展開しました。

午後からは、小笠原市長、川田健男南園署長を先頭に約四十人が後免町商店街をパレード、チラシやうちわを配り広く市民に協力を呼びかけました。

午前中、市役所一階のロビーで高知刑務所作業製品（家具、皮鞭など）の展示即売、恐ろしい覚せい剤や交通事故のパネル展、ビデオ映画の上映が行われ、四階では青少年、婦人の悩みごと相談所も開設されました。

この後、市役所で少年問題をテーマにした公開ケースの研究会が開かれ、問題点を話し合いました。最後に「犯罪の絶滅とともに犯罪者の立ち直りを願ひ、明るい社会をつくる」との決議文を全員で朗読、採択するなど、一日中運動を盛り上げました。



刑務所作業製品の即売や、各種相談所を設け、一日中啓発運動を展開